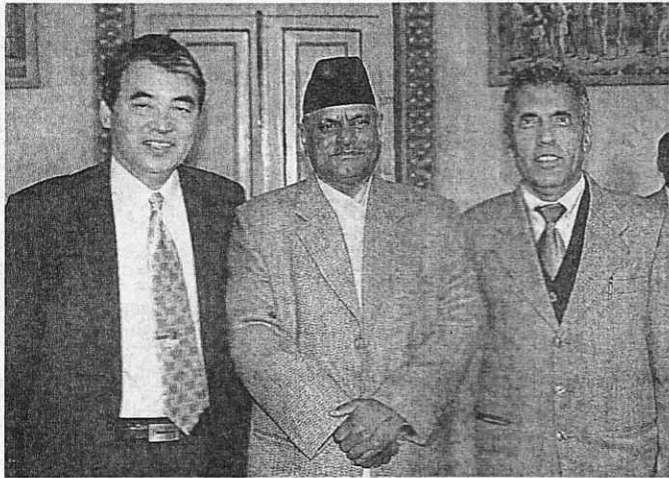


# ネパールに医科大を

岡山市に本部がある国際医療NGO「AMDA（アマタ）」が、ネパール国内に「AMDA国際医科大学」を設立する計画を進めている。4、5年後をめどに1学年約50人の6年制大学と350床規模の付属病院を設け、地域医療と国際医療救済活動を担う人材を育てるといふ。

（赤木基宏）

## 岡山の「AMDA」が計画



AMDAグループの菅波茂代表(62)によると、建設地については首都カトマンズ、AMDA病院があるタマック、AMDA子ども病院があるブトワルを候補地としている。建設費用は2億54億円程度で、AMDAの自己資金のほか、寄付や国際協力機構（JICA）、世界銀行などの支援・融資を充てる予定といふ。

教員やスタッフは、AMDAネパール支部員の医師に

## 救援活動担う人材を育成

務めてもらうことや、カトマンズ近郊にあり同支部員が医学部教員を務めるトリバン大学に協力してもらうことなどを検討している。被災地や避難所での医療支援を念頭に、予防医学や公衆衛生を重視する方針で、周産期医療で実績のある日本の大学の協力を得て、産科・小児科に力を入れる構想もあるといふ。

ネパール支部では既に開設構想推進を可決しているといふ、今後、詳細な計画を策定する。菅波代表と同支部のレグミ支部長が1月15日、ヤダブ大統領を表敬訪問した際、構想を説明したところ、大統領は「私にとっても喜び。今後ネパールの人たちを助けて欲しい」と言われたといふ。

菅波代表は「医科大ができれば、AMDAの理念に基づいた人材を自前で育成できるようにする」と話している。

ネパールのヤダブ大統領（中央）を表敬訪問した菅波茂・AMDAグループ代表（左）とレグミ・AMDAネパール支部長。この際に医科大構想を説明したというAMDA提供